

平成24年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：研究会「ニュートリノ」 英文：Neutrino workshop
研究代表者	梶田隆章（東京大学宇宙線研究所 教授）
参加研究者	南方久和（首都大学東京 名誉教授）、 谷本盛光（新潟大学理学部 教授）、 奥村公宏（東京大学宇宙線研究所 准教授）
研究成果概要	<p>平成24年度は「ニュートリノ」研究会を以下の通り開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none">開催日：2013年3月15日場所：宇宙線研究所大セミナー室趣旨：2012年にはT2K実験と原子炉ニュートリノ振動実験から有限の13-角の測定が報告されました。それと共に2012年にはIceCubeでPeVのエネルギー領域のニュートリノが2例報告され、いよいよ高エネルギー宇宙ニュートリノの観測の時代が始まることを予感させました。そこで今回の研究会では13-角の測定を受けて、今後の実験の発展の方向性、特に質量階層性について議論することとした。一方、高エネルギー宇宙ニュートリノについては、IceCubeでの超高エネルギー宇宙ニュートリノの解析の現状と今後の発展の方向性について議論することにしました。参加者数：（主催者側で把握した範囲で、39名。）研究会内容の公表方法：ニュートリノセンターホームページ： http://www-rcn.icrr.u-tokyo.ac.jp/nu-meeting/nu-meet26.html <p><u>プログラム</u></p> <p>10:30-10:35 はじめに（世話人）</p> <p>10:35-11:20 Beyond first observation of PeV-energy neutrinos with IceCube（石原安野、千葉大）</p> <p>11:20-12:05 高エネルギー宇宙ニュートリノ：突発天体起源の可能性について（浅野勝晃、東工大）</p>

昼休み

13:00-13:45 RENO and RENO-50 (K.K. Joo, Chonnam National Univ.)

13:45-14:30 Determination of mass hierarchy with medium baseline reactor neutrino experiments (高江洲義太郎, KIAS & KNRC)

14:30-15:15 大気ニュートリノでの質量階層性決定の可能性 (奥村公宏, ICRR)

コーヒー

15:40-16:10 Singlet portal extensions of the standard seesaw model with unbroken U(1) dark gauge symmetry (Pyungwon Ko, KIAS)

16:10-16:35 第1,2世代ニュートリノの質量縮退から探る世代構造の謎 (荒木 威、京都産業大益川塾)

16:35-17:00 Future Sensitivity of the T2K Experiment (Megan Friend, KEK)

整理番号